

□はリンク ※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名	グループホーム　　たなぎの家
日付	平成20年8月6日
評価機関名	特定非営利活動法人　高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員・認知症ケア専門員 介護支援専門員・看護師
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※	

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	共同生活の楽しさや喜びを共有する活動、個人の志向・嗜好に合わせた活動、地域化交流活動が存在し、緩やかに絡み合いながら向上しようとする努力が感じられました。 経営理念を基に各スタッフは「接遇」「報・連・相」「業務」の項目で個人目標を設定しているところがユニークで、個性重視のケアスタイルとして貴ホームの理念に一致していると感じました。。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	入居者のペースに合わせる事で、あせらせない働きかけが多く見られました。表情をよく見たリタッチによる支援が、安心の提供となりメンタル面に良い効果を与えていると入居者の表情や言葉から感じました。このような対人援助技術こそが、落ち着いた生活の場の取り組みとしてふさわしいといえます。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

1. 評価結果の概要

講評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
・4階建ての4階部分に位置し、階下に広がる田園風景は、四季折々の風景を自然と想像させ、思わず深呼吸をしたくなる立地です。外からの生活音はほとんどなく、大窓から、太陽がふりそそぎ、開放感と爽快感を体感できます。 ・関連施設内の散歩やイベント参加で、顔なじみの職員からの声掛けがあり、複合施設ならではの　ケアが存在している事が入居者にとって有利で、楽しい事だと思います。 ・職員の対人援助スキルは、個人の力量と組織のバックアップで質が維持されいる事を確認しました。各種研修の参加による自己研鑽への意欲があり、学びえたことを職場に還元・共有化へ発展させている一連の流れが、仲間づくり・職員定着化に寄与していると思います。
特に改善の余地があると思われる点
運営推進委員会・地域交流・ボランティア受け入れなど、外部との接点を拡大して行くことを期待します。

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	ブライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		○
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	入居者の視線に合わせた立ち位置や声の大きさは、一人ひとりの力に合わせた取り組みで、適切でした。 職員の笑顔や寄り添う姿から、手を携えて生きている隣人のような親近感とプライバシー保護の視点がバランスのよい距離感でした。 入居者同士の関係観察・生活歴を用いたレク活動の導入・季節感あふれる食事や行事が実践されているところから、取り組む方針は的を得ているといえます。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策		○
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		○
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組		○
36	地域との連携と交流促進		○
37	ホーム機能の地域への還元		○
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	提供された情報の検証、優先順位や危険度などを参考に、問題の内容・影響力などを分析している経過を、記録・報告から確認できました。このようなことが平常時より行われているので、努力に値していると感じました。外部との連携・交流などの基礎的ルーツは確立していると聞き取りましたので、今後は複合施設のメリットを利用して、貴ホームの中で独自の交流活動の実施を期待します。		